

令和6年度 普通会計決算見込みの概要

1. 歳入・歳出及び収支の状況

○物価高に伴う生活支援や事業者支援のほか、豪雨災害からの復旧・復興などに取り組んだ一方、新型コロナウイルス感染症関連経費が大幅に減少したことなどにより、**歳入・歳出規模は3年連続で減少**

(1) 歳入 6,954億円 (△149億円)

○県税収入 (過去最高)	R5 1,540億円→ R6 1,627億円 (+87億円)
○物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金	R5 7億円→ R6 41億円 (+34億円)
○県制度資金貸付金元利収入	R5 646億円→ R6 558億円 (△88億円)
○新型コロナウイルス感染症関連交付金	R5 221億円→ R6 6億円 (△215億円)
・緊急包括支援交付金 (医療提供体制の確保等)	[69億円→ 1億円 (△68億円)]
・地方創生臨時交付金 (地域経済の再活性化等)	[152億円→ 5億円 (△147億円)]

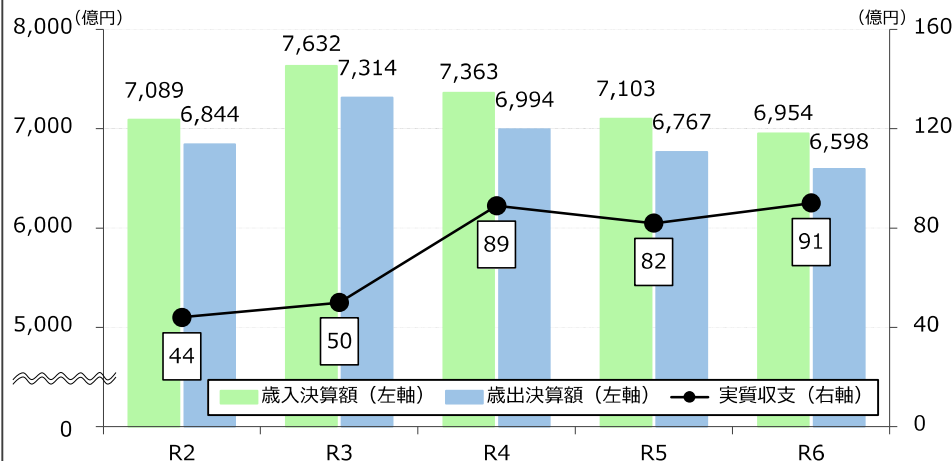
(2) 歳出 6,598億円 (△169億円)

○物価高に伴う生活支援・事業者支援等	R5 10億円→ R6 44億円 (+34億円)
○災害復旧費	R5 142億円→ R6 178億円 (+36億円)
○義務的経費 (人件費、扶助費、公債費)	R5 2,359億円→ R6 2,466億円 (+107億円)
○中小企業金融対策 (県制度資金)	R5 661億円→ R6 565億円 (△96億円)
○新型コロナウイルス感染症関連交付金事業	R5 246億円→ R6 18億円 (△228億円)
・医療提供体制の確保等	[78億円→ 1億円 (△77億円)]
・地域経済の再活性化等	[168億円→ 17億円 (△151億円)]

(1) - (2) = 356億円

(3) 翌年度繰越財源 265億円

実質収支 91億円の黒字 (1)-(2)-(3)



2. 財政の健全性

○財政構造の弾力性を示す**経常収支比率は微増 (+0.2pt)**

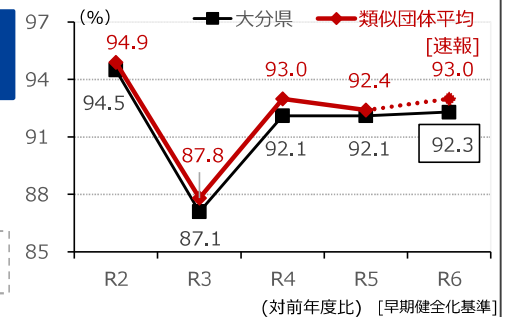
○**財政健全化4指標**は、いずれも**早期健全化基準以下**

経常収支比率 92.3%

(比率が高いほど財政構造が硬直化)

人件費や公債費などの増により経常経費(分子)が大きく増加したものの、県税収入の増等により経常一般財源(分母)も増加したことから微増

$$\frac{\text{経常経費充当一般財源等}}{\text{経常一般財源等} + \text{臨時財政対策債等}} \times 100$$



財政健全化4指標 早期健全化基準以下

◆実質公債費比率	10.5 %	(+0.7 pt)	[25 %]
◆将来負担比率	161.9 %	(△2.7 pt)	[400 %]
◆実質赤字比率	なし	(-)	[3.75 %]
◆連結実質赤字比率	なし	(-)	[8.75 %]

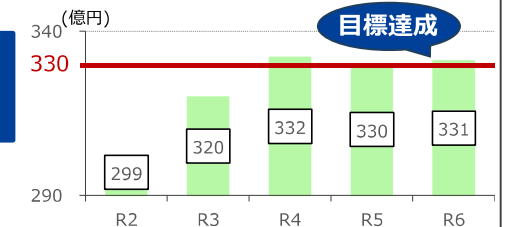
3. 安定的な財政基盤の確保

○**財政調整用基金残高、実質的な県債残高は、ともに行財政改革推進計画2024の目標を達成**

財政調整用基金残高

331億円 (目標 330億円)

県税収入等の増に加え、執行段階での節約などにより、取崩額を抑制(75億円から56億円へ)し、3年連続で目標額を確保



県債残高総額 1兆517億円

臨時財政対策債等を除いた 実質的な県債残高

6,153億円 (目標 6,500億円以下)

県土強靱化に力を入れる(+195億円)中でも、臨時財政対策債の償還が進み(△238億円)、加えて、交付税措置のない県債の発行を抑制(△70億円)したことと、総額は3年連続減少(△80億円)、実質的な残高は目標水準以下を堅持(+30億円)

